

# 池松壮亮さん曲折5年 アウシュビツツで願った平和の「一つの答え」

井上知大 カルチャー | 速報 | 東京 | 映像・音楽 | 関東

毎日新聞 | 2025/8/12 07:00(最終更新 8/12 14:57)  有料記事 2008文字



NHKスペシャル・ドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦～」で主人公の宇治田洋一を演じる俳優の池松壮亮さん＝東京都渋谷区で2025年8月2日、和田大典撮影

「我々はずっと『戦後』と言えるのでしょうか」

俳優の池松壮亮さん(35)は問いかけた後、続けた。

「本当にそう言い続けたい。でも、開戦のにおいが全くしないとは言えないですよね」

終戦から80年を迎えるこの夏、太平洋戦争前夜を描いた主演ドラマが放送される。胸の内にあるのは、戦争への危機感と、「自分たちの仕事は社会変革につながる」という俳優としての信念だ。

## 「黙殺された歴史に驚がくした」

1941(昭和16)年8月、近衛文麿首相の直属機関「総力戦研究所」が米国と戦争した場合のシミュレーションを行い、「日本必敗」という結果を内閣に報告した。

戦争が長期化し、最後はソ連参戦で行き詰まることまで予測した内容だ。

だが、陸相だった東条英機は「机上の演習と実戦は異なる」と退ける。2カ月後、内閣総辞職を受けて首相に就き、日米開戦を決断した。

ドラマは、この史実を基にしたノンフィクション「昭和16年夏の敗戦」(猪瀬直樹著)が原案となっている。演出、脚本を務めた石井裕也監督が5年ほど前、映画にするつもりで池松さんに主演をオファーしたのが始まりだ。

「この脚本と出会い、黙殺された国の歴史に驚がくしました」と池松さんは打ち明ける。曲折を経て8月16、17日の午後9時からNHKスペシャルとして放送されるドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦～」が完成した。放送には10分間のドキュメンタリーもある。



ドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦～」の一場面。宇治田洋一役の池松壮亮さん＝NHK提供

## この国に今も続く「見えない圧力」

総力戦研究所に集められたのは、軍部や官僚、民間から将来を担う平均33歳のエリートたち。「模擬内閣」を組織し、軍事・外交・経済などの機密情報も含めたデータの分析や机上演習などを通じて、総力戦の展開を予測していく。

池松さんが演じる宇治田洋一は、民間人である産業組合中央金庫(現・農林中金)の調査課長。模擬内閣の首相に指名される。

洋一は家族を巡る過去の出来事から軍に反感を持っており、当初シミュレーションには消極的だった。しかし、数字が物語る厳しい現実に突き動かされ、開戦回避へと動き出す。

机上演習の場面では「視聴者に『この人たちに国の行く末を託したい』と思ってもらえるような議論を見せたい」と意識したという。熱い空気感を表現するため、同世代の共演者たちと何度も演技について意見を交わし、まるで「部活のようだった」と振り返る。

ドラマでは、組織の意思決定の恐ろしさが描かれる。自由な議論ができるはずだった模擬内閣も、反米感情を募らせる当時の世論を背景に、軍幹部から圧力を受けるようになる。

「見えない圧力、空気というのは、この国の体質として今の時代も続いている。じゃあ、その正体は何か、我々の責任はどこにあるのか、を考えさせられる踏み込んだ作品です」



NHKスペシャル・ドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦～」で主人公の宇治田洋一を演じる俳優の池松壮亮さん＝東京都渋谷区で2025年8月2日、和田大典撮影

作品で重要な役柄を演じ、活躍が続く。

世界に目を向けると、イランや中国など、政府の監視が厳しく、自由に映画を作り、公開することができない国がある。

そんな環境の中から生み出され、強烈な印象を残してきた数々の映画に触れて感銘を受けてきた。だからこそ、俳優やフィクションを作る自分たちの仕事についてこう考える。

「エンターテインメントというだけでなく、社会変革につながっていると僕は信じているんです。物語というのは、人間の記憶を語るもの。その物語の担い手である俳優の自分は、(演じることで今の人たちに)どういう記憶を残していくべきか、常に考えています。未来にとって必要な物語を伝えていきたいと思います」

7歳上の石井監督とは、映画やドラマで何度もタッグを組んできた。

2017年の主演作「映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ」でベルリン国際映画祭に参加した際、たった1日だけできた休日を使い、石井監督と2人でポーランド南部のアウシュビッツ強制収容所跡を見学した。

## 俳優は「社会変革につながる仕事」

池松さんは、2023年に13年間所属した大手芸能事務所を退所して独立した。

「前の事務所にはものすごく感謝しています。そこにいたからこそできたことが、たくさんある」と感謝の言葉を口にする。

「ただ、自分自身の行き詰まりを感じていました。人として独立した立場で、大きな責任と引き換えに自由を得たかったんだと思います」。映画でも、テレビでも、硬軟多様な



NHKスペシャル・ドラマ「シミュレーション～昭和16年夏の敗戦～」で主人公の宇治田洋一を演じる俳優の池松壮亮さん＝東京都渋谷区で2025年8月2日、和田大典撮影

「そこで話し合ったこと、平和とか、愛とか、そういうことを、何年も一緒に物語を作りながら願ってきたと思います。その一つの答えとして今作『シミュレーション』にたどり着き、素晴らしい仲間と終戦80年のタイミングで発表できる。その意義やありがたさをすごく感じます」【井上知大】

### 池松壮亮(いけまつ・そうすけ)

1990年7月9日生まれ、福岡県出身。13歳の時、「ラストサムライ」で映画初出演。2024年公開の映画「ぼくのお日さま」で、第79回毎日映画コンクール助演俳優賞を受賞した。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは(株)フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.